

市民の華麗な舞いで 世界に羽ばたく FACE 横顔



華麗な舞いで
世界に羽ばたく

バレエダンサー
福山麗さん・壮一郎さん

優美な演舞で観衆を魅了するバレエ。世界中でダンサーが活躍しています。そんな世界の舞台を目指しているのが、市内在住の福山麗さん、壮一郎さんの姉弟です。

「あこがれ」から始めたバレエ

宝塚歌劇にあこがれ、5歳でバレエを習い始めた麗さん。「ひとつひとつの動作が難しいので、すぐには習得できませんが、練習を重ねて少しずつできるようになることが楽しかったです」と振り返ります。そんな姉の姿を見て、壮一郎さんも小学4年生からバレエを始めました。「器械体操をし



インタビュー中は大人びた話しぶりでしたが、まだ16歳と13歳の姉弟



若いダンサーを対象とした世界最大の国際バレエコンクールのフランス予選 YAGP2022 Paris France Semi Finals 第1位



京都バレエコンクールPBK15th Competition 2021 第1位

ていましたが、美しく舞う姉を見て自分も、と思いました。練習は大変ですが、その積み重ねを本番で披露できるのがうれしいです」。

辛い時も姉の絆で乗り越える

これまで数々のコンクールに出場しましたが、好成績ばかりではなく不成績の時もあり、その間に辛いことや悩みもあったといいます。「大会出場前、突然スランプに陥ったことがありました。初心に帰り練習しなさいと先生に言われ指導してもらい、克服するまでには辛い時もありません」と麗さん。また、壮一郎さんも「思った通りにできなかった時は、自分自身を責めてしまします。もうバレエはやりたいくない、と思ったこともありました。しかし、そんな時には、同じ道を進む姉の絆の強さで乗り越えてきました。「弟は、私の心の支えになっています。良い意味で性格が違うので、目

線の違うアドバイスをくれて、ハツとすることもあります」。「姉はバレエについていろんなことを教えてくれるので、とても頼もしいです。2人でコンクールに出場した時は、姉弟ということもあり息の合った演舞ができました。たまに意見が異なることもありますが、それが逆によい方向に向かうこともあるんです」。

大きな夢の舞台に向けて

2人は今、さらなる飛躍を目指しています。麗さんは、昨年10月からポルトガルのバレエ学校に留学。そして、壮一郎さんも来年同じ学校に留学予定です。麗さんは、留学で経験を重ね、まるで自分の体から音が出ているような演舞を、壮一郎さんも表現力に磨きをかけ、見る人を魅了する演舞を目指しています。世界の舞台で活躍する「プリンシパル※」を夢見てこれからも2人は歩み続けます。

※バレエ団のトップの階級にいるダンサーのこと